

# すくすく たけのこ



## 子どもは“笑顔の宝箱”

いち早く春を告げた梅の花も、暖かな風に舞い、春の主役のバトンは桜に渡されました。

桜花爛漫の季節の中で、“希望の城(関西創価小)”は、喜びに胸を膨らませる新入生を迎える日を心待ちにしています。

前回のコラムは、「泣く」ことでしたが、今回は、「笑顔」をテーマに筆を進めたいと思います。



本校を訪れた多くの方は、「笑顔いっぱいの学校ですね」と、訪問の感想を述べてくださいます。関西創価小学校のスクールポリシーは、「明日も行きたくなる学校 未来につながる学校」ですが、「明日も行きたくなる学校」とは、「笑顔いっぱいの学校」とも言えます。



「笑顔」が身体に与える働きは、さまざまあります。

- ① 免疫力をアップする
- ② 脳の働きを活発にする
- ③ 幸せな気持ちにさせる

など、その効果は絶大です。



よいことばかりが挙げられる「笑顔」ですが、「子どもを叱るために、つい大声を出してしまおう!」、「毎日子育ては修羅場です!」など、疲れて「笑顔でいられない」という声も聞こえてきます。

子育ては想像以上に大変だと思いますが、その中で楽しさを実感し、いつも笑顔でいられたら幸せですよね。そんな子育てができる秘訣を綴ってみたいと思います。

### 1. “楽しむ”ために「笑顔」をつくる

人には感情があり、その感情に応じて表情が作られます。したがって、笑顔も“嬉しい”や“楽しい”といった感情から自然に湧き上がってくるものです。笑顔はそうしたポジティブな感情の産物ですが、「失笑」「苦笑」「冷笑」「嘲笑」といった「ネガティブなもの」や「作り笑い」と呼ばれるものもあります。

でも笑顔には、“特別な力”があります。「作り笑顔」と「感情」の関係には、面白い事実が隠されているといえます。



脳科学の研究によると、「楽しいから笑う」ということの他に「笑うから楽しい」という感情が生まれることも分かってきました。つまり、「楽しい」⇒「だから笑う」ということもあれば、「笑う⇒だから楽しい」という、両方のベクトルがあり、不思議なことに「その効果は、どちらも同じ」だと言うのです。不思議ですよ。笑顔の力ってすごい!

私が強く心に残っている創業者・池田先生の言葉があります。

「幸せだから微笑むのではない。微笑んでいくことが幸せの因になっていく。幸せだから微笑む、幸せの結果として微笑むんじゃないんだ。どんな大変なときも、そこでにっこり笑っていく、その命に福運が増していく」

毎日の生活には、いろいろな出来事が起こり、様々な感情が入り混じります。そうした中で、子育てをしているのが、現実の姿です。

しかし、漣(さざなみ)のように起こるそうした感情に左右されるのではなく、いつも自分の気持ちを“前へ 前へ”、“上へ 上へ”と向けていくことが大事なのです。

## 2. 「子どもは“笑顔の宝箱”」子どもをよく見よう

子どもは“笑顔の宝箱”です。意識して子どもをよく見ると、こちらが笑顔になることがあります。

いろいろなことが起こっても“**微笑みを忘れないでいこう**”と決めて生活していくと、**様々な発見があり、楽しくなってきます**。ここからは、私の体験です。



私には2人の男の子がいますが、特に下の子の言動には、よく笑わされました。

息子は、小さいころから人が集まる**雰囲気が好き**で、いつも母親に連れられて活動に行っていました。そこに集っていた“**大阪のおばちゃんたち**”は「よく来たね」と言って、とてもかわいがってくれました。そして、「**ごほうび!**」と言って、**飴**をくれました。



彼は、その頂いた飴を毎回、**舐めないで、ガリガリと音を立てて食べていた**のです。

そんな奇妙な行動が何日か続いたある日、突然「**おばちゃんたちから飴をもらうのが“可愛い”**」と言い出したのです。不思議に思って尋ねると「**だって、テレビで『舐めたらあかん!』、『舐めたらあかん!』って言っているでしょ。だからボク、噛んで食べてるの……。でも歯が痛くなってきちゃって……**」と真顔で言うのです。天童よしみさんの「**のど飴のコマーシャル**」のことですね。思わず笑みがこぼれてしまいました。

また、こんな出来事もありました。

「**今日は信号、全部に引っかかって、時間に遅れちゃった。ゴメンね**」と頭をかきながら謝るおばちゃんを見て、「**どうやって、あんな高いところにある信号機に、ひっかかっていたのだろう?**」と思っていたそうです。なんとまあ、「**そうとるか**」という感じですよ。



さらに、こんなエピソードもありました。

うちの近くには、明治時代の初期に建てられた公立小学校があり、その庭に「**二宮金次郎**」の銅像がありました。**薪を背負って本を読んでいるあの銅**

像です。それを見た彼は、「**あの子、いつも本を片手に、お机を背負って大変だな**」と思っていたと言っています。

金次郎さんが背負っているのは“**薪**”ではなく、“**机**”を背負っているように見えたんですね。薪を使うことがほとんどない現代では、薪より机の方がストーリーとしては、つながりますよね。



このように、子どもの生活を注意深く見ていると、いろいろな発見があり、親であるこちらが思わず笑顔になってしまいます。

子どもは、大人は気付けない“**子どもならではの視点**”があって、親を楽しませてくれます。おもちゃを自分なりに工夫して遊んだり、森の虫や花、飛んでいる飛行機やヘリコプターを見て大喜びをしたりするなど、**子どもの周りには、不思議な出来事がいっぱい**です。だから、子どもは「**笑顔を与えてくれる“宝箱”**」なのです。

でも、そんな素晴らしい“宝箱”も、その**中身を見ることができない時**があります。

それは、私たちの**⑦子どもに対する要求が高かったり、⑧完璧すぎたりするとき**、また、親である私たち大人に**⑨時間に余裕がなかったりすると**、その宝箱の中身を見ることはできません。

私たちが、いつも**微笑みを絶やさず進んで行こうと決めて、子どもたちを見つめていれば、子育てが楽しいと**感じられるのです。



人の脳は、ミラーニューロンという神経細胞があり、自分がみている人の感情を再現するといえます。

つまり、私たち親が笑顔なら子どもも笑顔になります。そうして笑顔が広がっていきます。

「**笑顔にあふれた家庭ほど、幸福なものはない**」との創立者のお言葉が思い起こされます。

「**笑**」と「**咲**」は**同じルーツの字だ**と言われていきます。微笑みのある「**成長家族**」の中で、子どもはすくすくと育ち、可能性という大輪の花を咲かせていくと思うのです。(晃)